

B-1 "Let's Speak English"

“Let's Speak English” タイムの取組

- ① 1つのテーマに沿った対話文の練習をくり返し行う。……………形式の指導
- ② 対話の答えの部分をまとめ、スピーチをする。……………内容の指導
- ③ スピーチに追加や変更をして5～6文程度にまとめて書く。……………論理的構成の指導
- ④ 違うテーマで応用した文章を書く。……………応用の指導

下記の仮説のもとに、上記の実践を行った。

- ア. ①～③の中で必要な語彙や文法の運用の仕方を学ぶことができるのではないだろうか。
- イ. ①のパターンから④の応用の文章を書くときに、ブレインストーミングや、文構成のパターンを学習することで、オリジナルの文の構成が容易になるのではないだろうか。
- ウ. ①～③を継続的に繰り返し行うことで、④のように応用した自分の表現ができるようになるのではないか。
- エ. 表現の能力、言語知識が向上するにつれて、自己表現の意欲が高まるのではないだろうか。

①～③のステップは対話の文がそのまま、あるいは少々書き換えることによって、スピーチの構想が固まり、英作文を完成させるまでの手だてとなることが望ましい。これらの3つのステップで、生徒の負担の少ない学習で、かつ授業に支障のない少ない時間を使って継続的な指導をしようと、全学年で取り組んでいる。

①は、毎回授業開始時ペアで対話をする。生徒AとBは互いにワークシートを見ながら同じ対話を1ヶ月間繰り返し練習する。1ヶ月の最後の週に向けて、ワークシートを見ないで答えたり、違う答えを言ったりできるように、対話から一人で口頭練習、書いて練習など、それぞれで工夫する。3分間で1ヶ月続けると、3分×3回×5週＝45分練習したと同じ事になる。テーマは“Talk about Your Favorite Singers” “Talk about Your Favorite Places” “Talk about Your Favorite Sports”などで、対話文のワークシートは教師が用意し、質問文はほとんど書いてあるが、答えは自分独自の答えでよい。

②は、同じテーマの最後の週にペアでスピーチを聞き合い、これをスピーチテストとし、自己評価、相互評価をする。スピーチ前に評価の観点を明確にし、生徒に必ず伝える。

③は、スピーチテスト後、テーマについて英文をまとめとして書く。このとき、できるだけ多く書くよう指示する。英作文の前に評価の観点を明確にし、必ず生徒に伝える。

④は、次のテーマに取り組む前に、新しいテーマでどのくらい英文を書けるか試してみる。

上記のサイクルの後には、新しいテーマでまた1ヶ月練習をする。